

むしにつき 年長児の虫捕り記録

吉田 現 (よこやま保育園)・吉田 由佳

はじめに

虫捕りを始めたばかりの幼児と親です。写真による虫捕り記録(むしにつき)をつけています。2021年記録分のうち、三田市三輪(三田市立三輪小学校校区)で採集した虫を報告しました。

記録方法

- ① 虫を捕まえる/見つけて知らせる(子)
- ② スマホやデジカメで撮影する(親または子)
- ③ 後日、図鑑などを見て名前を調べる・絵を描いて覚える(子)
- ④ ②③の情報から写真・日時・場所・名前を1ページに記録(図1)
- ⑤ 集計。判別に必要な部位(撮影しないと分からないところ)を教えてもらう(親)



図1 むしにつき



図2 撮影の工夫

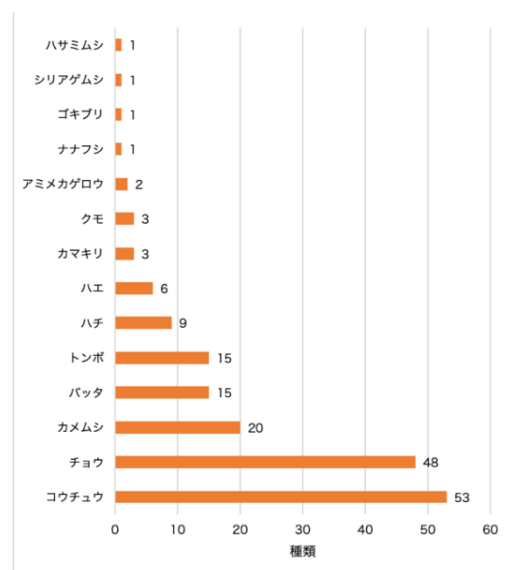
結果と考察

三田市三輪で幼児が捕まえることができた虫は178種類だった。特にコウチュウ類とチョウ類が多かった(表1)。雑木林際や草むらでよく見付き、特にカラムシの葉の上で様々な虫を発見できた。

写真を撮影して帰ることで、後日しっかり観察することができ、現地で名前が分からない虫も名前を知ることができた。アリと思って撮影したものがクモだった等の発見もあった。

名前を調べるにあたって生きている状態の写真の図鑑や、写真の大きなWeb図鑑、兵庫県内の虫の図鑑が役立った。子供用の昆虫図鑑(羽が広げられた状態の標本写真)では、撮影した状態と異なるため比較が難しかった。図鑑上で見つからなかった虫について、特徴の列挙などによりインターネットで検索したが特定は難しかった。

表1 三輪で捕まえた虫の種類(全178種)



共生のひろばでは「捕まえて嬉しかった」写真を選び展示した（図3）。



図3 共生のひろばのポスター

表2に撮影した虫の月別内訳を示す。甲虫が最も出現したのは5月だった。チョウ類は常にいた。7月はセミを捕れなかったため撮影数が少なく、有馬富士公園など、ほかの場所で虫捕りをしていた影響がある。バッタ類の撮影数が少ないが、実際には夜に鳴く虫が大量にいた。本表は幼虫と成虫のどちらもカウントしており、幼児の身体能力で捕まえることができる虫に偏っている。

表2 三輪で撮影した虫の月別内訳（全284匹）

撮影月	チョウ	コウチュウ	カメムシ	トンボ	バッタ	ハチ	カマキリ	ハエ	クモ	アミメカゲロウ	ナナフシ	ゴキブリ	ハサミムシ	シリアゲムシ	総計
3月	1	1													2
4月	4	10	1			2		2							19
5月	19	39	8		2	2	1	4	2	1		1			79
6月	5	15	7	3	1	1				1					33
7月	3	5	3		1					1			1		14
8月	25	6	4	3	6	1	1								46
9月	18	5	3	11	4	1	3							1	46
10月	14	3	1	5	6	1	2		1		1				34
11月	3	2	1	2		1					1				10
12月	1														1
総計	93	86	28	24	20	9	7	6	3	3	2	1	1	1	284

感想

ほいくえんのやすみの日に、たくさん虫をとりました。コウチュウ、バッタ、チョウ、トンボがたくさんいました。ことしの夏はオニヤンマとギンヤンマをつかまえたいです。（吉田現）

身近にこんなに多種類の虫がいたことに驚きです。写真を撮って図鑑で調べることで、虫の特徴を数多く覚えることができました。楽しく虫捕りをしましたが、今後は何か目的をもって調査できたらと思います。快く虫捕りをさせてくださった同地区の皆様へ御礼申し上げます。（吉田由佳）